

## 第3章 「まちづくりディスカッション」の検証と評価

第4次基本計画第1次改定に向けたまちづくりディスカッションは、三鷹市とNPO法人みたか市民協働ネットワークがパートナーシップ協定を締結し、協働で推進した取り組みである。三鷹市で7回目の開催となる今回のまちづくりディスカッションの主な特徴は、以下のとおりである。

- (1) NPO法人みたか市民協働ネットワークが、2010年度に実施した「コーディネーター養成講座」の受講者に加え、さらに幅広い個人・団体及び学生に呼びかけて実行委員会を設置し企画・運営を行った点
- (2) 3つのテーマについて、同時進行で運営を行った点
- (3) 全体スケジュールを1.5日とした点

以上の3点をふまえ、実行委員会で検証と評価を行った。

なお、今回は基本計画改定に向けた開催であったため、三鷹市から実行委員会に対し、基本計画改定の方向性に沿ったテーマが示されたので、テーマ設定についての検証は行わなかった。

### I 検証と評価（プログラム編）

#### 1 プログラム設計

- ・テーマAの第1回話し合いの設問については話しやすさを優先したため、投票の対象となるような「まとめの意見」が出しづらかった。
- ・テーマAの最初の設問は施設の利用状況を尋ねるだけの内容だったので、投票に向けての話し合いの内容にはならなかった。何を話すべきかわからないという参加者がいた。このため、第1回の話し合いをアイスブレイクという位置づけにはせず、別の方法を考えてもよいのではないか。あるいは、1回目の話し合いは、アイスブレイクと割り切って、時間も短くし投票しない方法もあるのではないか。
- ・テーマAは、参加者にとっては何を話し合えばよいのか分かりづらいテーマであった。
- ・テーマCについては、もう少し具体的に深く掘り下げる内容でもよかった。
- ・参加者にとっては、話し合いの内容が重複していると感じる設問があった。一つ一つの設問の精査のほかに一連の流れについても、もう少し検討が必要な箇所があった。
- ・設計をする前提として、最終的に計画改定に何をどのように反映させたいかということをもう少し具体的に共有した方がよい。そうすれば、最後の話し合いの際に、「まとめの意見」が導きやすい設計になる。
- ・最終的に、もう少し具体的な意見が出るような設計にした方がよい。
- ・報告書にまとめるための分析をすることを前提に設問を考えた方がよい。

#### 2 情報提供

- ・実行委員会における準備期間が短かったため、事前に情報提供者とプログラム設計についてのやり取りをする時間がなかった。プログラム設計については、以前より情報提供者とのすり合わせの必要性が言われてきたが、できるかぎり早い段階で情報提供者を決定するよう努めることが望ましい。
- ・とても分かりやすい情報提供で、参加者が今後の市の方向性について話し合うための良い内容であった。
- ・原則として話し合いと情報提供はセットであるという基本事項は崩さない方がよい。今回は、行政

からの情報提供以外に依頼した情報提供者は一人であった。話の内容はすばらしかったが、話し合いの結果が、一人の情報提供者の傾向に流される危険性はある。設問の内容や情報提供については、直接、参加者のアイデアや意見に影響を与えるものなので、今後も慎重に検討する必要がある。

- ・情報提供の内容はすばらしかったが、包括的な内容で、三鷹の具体的な事例とは結びつけにくく、参加者にとっては関連付けが難しかった。
- ・情報提供の時間が足りなかった。
- ・コーディネーターとして間近で話し合いを聞いていて、情報提供が話し合いの内容を左右することを感じた。学識者の話が市外の例であったため、三鷹市の計画ということ忘れて議論する場面もあった。行政の情報提供は学識者の情報提供の後にした方がよい。

### 3 時間配分

- ・今回、高齢の参加者への配慮もあり、全体で1.5日の開催としたが、ちょうどよかったのではないかな。
- ・休憩時間の入れ方等も含め、ちょうどよかったのではないかな。
- ・1回ごとの話し合いの時間はちょうどよかったが、発表の時間をもう少しとった方がよかった。

### 4 話し合いの方法と投票

- ・シンプルに具体化できることが「まちづくりディスカッション」のメリットであるが、話し合いの中で出された素敵なニュアンスの言葉が形式化され、「まとめの意見」に反映されないことが残念である。
- ・発表者の負担を少なくするため、またグループ全体の意見であることを強調するため、発表時は全員で前に出る方がよいのではないかな。
- ・投票結果は、発表者の出来栄に左右される場合もある。
- ・グループによってはジャンケンではなく得意な人に発表をお願いしていた。全体でルールを統一する必要があるのではないかな。
- ・投票は意見の傾向をみるためのものなので、投票結果の発表の際、得票順に順位付けをしたような言い方はしない方がよい。
- ・時間係を配置するよりもタイマー等で機械的に知らせる方法の方が話し合いに専念できるのではないかな。
- ・コーディネーターの位置づけをもう少しはっきりと示した方がよい。
- ・「まとめの意見」の欄には、付箋を書く時と同様、内容を絞った形で文章化した方がよい。一つのまとめの意見の中に複数の要素が入っていると、分析が困難になる。

## II 検証と評価（運営編）

### 1 実行委員会

- ・新しく参加した実行委員も多かったため、改めてコーディネーター養成講座の内容を確認した方がよかった。今後は、実行委員会を設置する都度、コーディネーター養成講座を行うべきである。
- ・今回、話し合いのテーブルにタブレットの持ち込みを希望する参加者がおり、コーディネーターが対応に困る場面があった。事前にさまざまな場面を想定し、危機管理や対応策についても検討を行う必要があった。
- ・参加者から投票をする意味など手法に関する質問を受ける場面もあり、コーディネーター全員が同じように答えられるよう養成講座を実施した方がよい。
- ・各テーマのグループに分かれてプログラムを検討したことは良かったが、さらに出来上がったプログラムに沿って模擬ディスカッションを行う時間があればよかった。

- ・本番を想定した模擬ディスカッションは行った方がよい。
- ・模擬ディスカッションは、単にコーディネーターのノウハウの共有だけではなく、プログラム設計を検証する場としての役割もある。
- ・最初段階から各テーマの担当を決め、テーマごとに検討から役割分担までできればよかった。テーマ別の会議と全体会議という構成にすれば、もう少し機動力が高まるのではないかと。
- ・学生が参加してくれたことはとてもよかった。とてもがんばってくれた。
- ・プログラム設計を含め、もう少し実行委員会の中で話し合いができればよかった。

## 2 運営全般について

- ・開催する側は慣れている部分も多いのでやりやすいところもあるが、毎回、参加者は初めての方たちなので、そこを意識した運営が必要である。
- ・予定していたタイムスケジュールとズレが出た場合の対処がコーディネーター任せになった部分があった。
- ・参加者ハンドブックに、第1回から第4回までの設問内容を記載してほしいとの参加者からの要望があった。今後は、記載する方向で検討する。
- ・アイスブレイクは全体会の会場ではなくテーマ別の会場にて行った方がよい。
- ・投票の際に高齢者がシールを貼りにいくことが大変そうな場面もあった。改善策を検討することも必要ではないか。

## 3 全体スケジュール

- ・実行委員会の設置時期が遅かった。プログラムの検討やコーディネーターの養成等々に十分な時間が割けなかったことを考えると、もう少し早い時期に立ち上げるべきである。

## 4 人員配置・役割分担

- ・人員配置については適切であったとの意見が多かったが、受付方法など細かな点で本番当日までに徹底できていない部分もあった。役割ごとの事前打合せをした方がよかった。

## 5 会場設営

- ・今回は、三鷹市公会堂さんさん館の3階と4階の会議室を会場とした。その結果、テーマCのみ会場が4階となった。できれば一つのフロアで開催できることが望ましいが、特に問題はなかった。
- ・テーマAの会場は全体会の会場とパーティションで区切って使用したため、使いづらい部分があった。他の会場についても、模造紙を貼るスペースなど、もう少し広い方が使いやすい。
- ・すべての話し合いのシートを貼り出すスペースがあればよかった。
- ・全体としては、机や椅子、傍聴者席なども配置しやすく、バス便の多さや駐車場が利用できるなどアクセスのよさもあり、使いやすい会場であった。

## 6 参加人数

- ・当日の参加者を75人として1,800通の参加依頼書を発送した。締切日の9月末の時点で103人の方の承諾を得たが、本番までに辞退する人数も考慮し、抽選は行わなかった。結果として当日の参加者は83人となり、人数はちょうどよかった。
- ・参加依頼書に同封したアンケートに、興味のあるテーマを尋ねる質問を入れたが、必ずしも興味のあるテーマに参加はできず、来場順に案内をする形式をとった。参加者の満足度を考えると興味のあるテーマに参加できるよう配慮してもよかったかもしれない。